



【1】 一種研開催報告

第一種のア・P研究会が3月14日から15日まで福井大学文京キャンパス アカデミーホールで開催されました。チュートリアル講演が1件、特別講演が1件、一般講演が21件、計23件の発表が行われました。また、3月は卒業の時期でもあり、一般講演の中には6件が博士号を取得したばかりの新卒の研究者からの若手招待依頼講演発表もありました。

14日には千葉工業大学の枚田明彦教授が「300 GHz 帯における近距離電波伝搬特性評価技術」と題するチュートリアル講演を行いました(写真1)。具体的には、高速な到来方向測定を可能にする可搬型テラヘルツ半球スキャナの開発や、VNAを用いたチャネルサウンダーを使用したボディエリアネットワークにおける伝搬パスの解析、そして反射型・透過型測定系を用いて各種建材の複素誘電率の測定など、非常に魅力的な技術が紹介されました。

また、IEEE AP-S Nagoya Chapterが主催した宮越順二先生(公益財団法人体質研究会)による「移动通信アンテナ設計のための電磁環境と健康の国際動向 ～これまでの経緯, 研究, そして今後の課題～」と題する特別講演が15日に開催されました(写真2)。携帯電話が主流となる移动通信や、また大電力伝送のワイヤレス給電などは現代社会において広く普及しており、そのため電波は日常生活において切っても切れない存在です。そこで、電波が人体に与える影響についての課題について、宮越先生はその研究の経緯や、ご自身が参加されたWHOの検討チーム活動、そしてそれらの電波が人類への影響に関する結論について詳細に解説してくださいました。このような問題解決には、アンテナを含む電波研究者と医学者の連携が不可欠であることを最後に強調し、今後の更なる連携を呼びかけられました。



写真1 千葉工業大学 枚田明彦教授



写真2 宮越順二先生の講演様子

【2】 フレッシュドクター若手招待講演

下記6名フレッシュドクターの依頼講演発表がありました。博士号の取得おめでとうございます！(写真3)

●水谷智一(防衛大), 「広帯域特性を有する直交偏波無指向性アンテナの小型化構造」

●西目匠(防衛大), 「筐体励振アンテナの設計手法と給電構造」

●朝日慧(東京農工大), 「MR/FDTD法の解析時間改善に関する研究」

●WEN WU(東北大), 「Bandwidth Enhancement Research for Reflectarray Antenna」

●Abudusaimi Abuduaini (岩手大), 「ToF-based Positioning Technique and Its Evaluation Using Real Wi-Fi Stations」

●室伏竜之介(横浜国大/職能開発大), 「マイクロストリップ線路と電氣的に等価な平衡線路における受動相互変調の非接触測定系」



写真3 フレッシュドクター達(左1-6)

AP研究会委員長 榎原久二男教授(右)

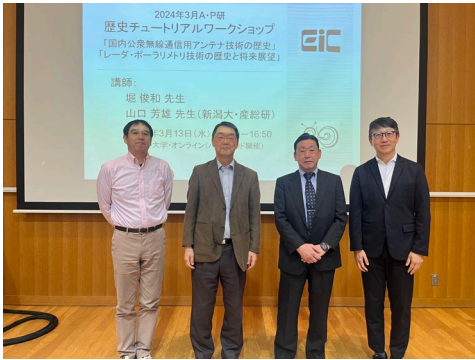


写真4 左1: 歴史委員会委員長 山口良氏
左2: 新潟大学 山口芳雄 講師
右2: 堀俊和 講師
右1: AP研究会委員長 榎原久二男教授

【3】歴史チュートリアルワークショップの報告

一種研究会開催の先日に、福井大学においてWEB会議のハイブリッド形式で(写真4)、歴史委員会主催のチュートリアルワークショップが開催されました。堀俊和先生が国内公衆無線通信用アンテナ技術の歴史(120分)を、そして新潟大学の山口芳雄先生がレーダ・ポラリメトリ技術の歴史と将来展望(90分)について講演を行いました。なお、講演は現地で18人、オンラインでは90名を超える参加者があり、大変盛況でした。また、「歴史を学ぶことは非常に有益です。今後も定期的実施していただくとありがたいです」とのコメントも寄せられました。

【4】副委員長の戯言

◆北陸新幹線の金沢-敦賀間の開業

3月16日に北陸新幹線金沢から敦賀までの区間が開業し、全国的なニュースとなりました。また、15日にはAP研究会の会議中に、開業祝賀のブルーインパルス飛行のために練習飛行が行われました(写真5)。この写真を会議の会場を担当された藤元美俊教授がお見事に撮られました。また、私自身は初めて福井を訪れたことから、駅前の恐竜像や16日の朝帰宅途中に撮影した開業の盛り上がりの風景も写真に収めました(写真6-7)。その歴史的な瞬間を、目撃できたことは嬉しいです。



写真5 ブルーインパルス練習
(福井大学 藤元美俊教授提供)

◆IEEE R10 Annual meetingの参加雑感

3月2日から4日まで、マレーシアのクアラルンプールで開催されたIEEE R10 Annual Meetingに、仙台セクションの代表として参加してきました。AP研究会との関連も若干ありますので、3点ほど情報を提供させていただきます。今回の会議には約140名の参加者があり、毎朝参加者の名前が呼ばれ、出席状況が確認されました。IEEE中でConference Quality Committee (CQC)があり、IEEEが主催する会議(写真8)の品質を維持するための監督役割を果たす委員会です。また、皆様もご存知の通り、2028年には現在のR10がR10とR11に分割され、北アジアがR10、南アジアがR11になる予定です。同時にR1と



写真6 福井駅の恐竜像



写真8 2023年 IEEE Conferences & Events



写真7 福井駅内祝賀風景

R2は一つに統合されます。

〈問い合わせ先〉

アンテナ・伝播研究専門委員会副委員長 袁 巧微 (東北工業大学)

E-mail: ap_ac-chair@mail.ieice.org (A・P研執行部のメールアドレス)

AP-NET: A・P研最新情報を毎月メールにてお届けします!! 登録はA・P研HPIにて

A・P研HP: <https://www.ieice.org/cs/ap/>

